2018 年　習志野市「子どもの生活に関する実態調査」からの一考察

Ⅰ．結果の背景への考察～主に社会経済状況に着目して

１．生活習慣

１）朝食の摂取割合

単に食べたかどうかだけでなく、今後は「何を」に着目する必要性

２）生活リズム

朝食摂取との関連性～夜更かし：塾、スマホなどメディアの使用など生活全般を反映

３）運動習慣

中学生～部活への参加

2. 健康

１）主観的健康観

社会経済状況と健康の関連性～健康をむしばむ恐れ

２）歯科：歯科～虐待、貧困との関連性（子どもの貧困と肥満の関連）

3. 学習

小学校低学年の時点で、学習についていけていない恐れ

地域差

生活全般との関連性～生活習慣、経済状況、生活環境など

Ⅱ．結果を踏まえた今後の取り組みへの一考察

1. 子どもの居場所づくり

スポーツや学習、多様な人（同年齢・異年齢）との交流する場

地域特性を生かした場づくり

2. 教育・福祉・保健の連動／ワンストップ・サービス化

新規の窓口創設ということではなく、まずは各部門の連携・連動、情報共有という意識を

例）スクールカウンセラー：不登校の相談～役所の福祉・保健部門と事例検討会　など

→　何に困っているかわからない・・・➢　状況を一緒に整理する

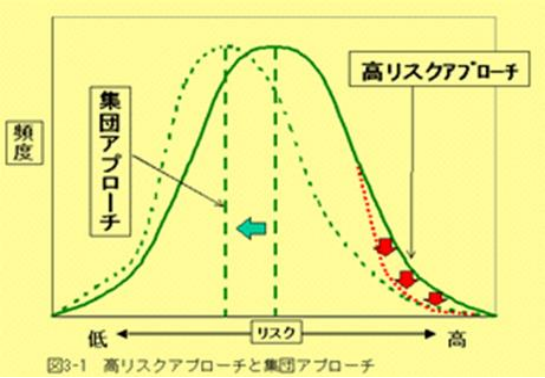
→　情報リテラシーの低さ・・・➢　情報を必要とする人にきちんと届ける方法の工夫

→　支援への抵抗感・・・➢　当事者だけでなく、市民全体への啓発

3. 地域力の向上～ソーシャル・キャピタル／ハイリスクアプローチ⇔ポピュレーションアプローチ

ソーシャル・キャピタル（Social　Capital）≒『ご近所の底力』

コミュニティにおける相互の信頼感や互助意識、ネットワークへの積極的参加などを意味する。ソーシャル・キャピタルが豊かな地域ほど、子どもの成績がよい、学校の中退率が低い、犯罪率が低い、住民の主観的健康度が高い、孤独死を予防するなどの関連がある。



http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/08/s0804-3a01.html

4. 庁内・市民を巻き込んだ相互理解　⇒　それぞれの立場でできることは何？

（担当：鎌倉女子大学　臺　有桂）